

<学習室>

学年目標

📶メガもり★ポテト📶

～やさしく なかよく あきらめない きりかえ えがおあふれるクラス😊～

【大切にしたいこと】

○少しずつ、でも確実に、スモールステップを大切に。

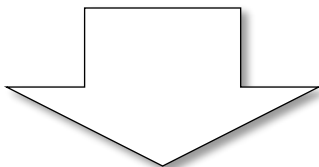
その子どものペースに合わせて、出来そうなことから少しずつステップアップを目指す。
生活経験を広げ、自信につなげていく。

○友達とのかかわりを通して成長

少人数だからこそ、友達とのかかわりを作っていく。異学年の交流を大切に、少しずつリーダーになっていく。同じ経験でも学年や経験年数に応じて新たな役割や経験となる。

○交流級での活動・学習

「行ってきます」「ただいま」学習室をベースにしながら、生活経験を広げ、集団の中で育つ力も大切に。その子どもに合った形での交流を行っていく。



【一年間を振り返って】

「メガもりポテト」を1年間意識し、「友達にやさしくできたこと」「友達と一緒に活動できたこと」を日々振り返りながら、みんなでできたことを認め合い、高め合うことにつながった一年間でした。生活単元学習では、「メガもりレモンサイダー」を販売する活動を中心に行い、リユース瓶の大切さと課題について理解を深め、学校のみんなにリユースを呼びかける活動を行いました。呼びかけを聞き、クラスに空き瓶をもってきてくれた友達や保護者の方々がいたことに子どもたちは、自分たちの想いが他の人の意識を少し変えることができたという喜びを感じていました。

集団で活動する楽しさや達成感を感じ、安心して学校生活を過ごすことにつながりました。



<1年生>

学年目標

なまくりいむ

【大切にしたいこと】

① 明るく挨拶をする

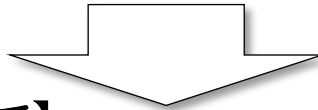
友達、上級生、先生、色々な人に挨拶をしよう！明るい挨拶は、コミュニケーションの第一歩。自分から挨拶することを、大切にしていきます。

② 「～したい。」を大切にする

1年生は、周囲の様々なヒト・モノ・コトに対して興味関心が高く、意欲的な時期です。「知りたい。」「関わりたい。」「やってみたい。」等、子どもたちの素朴な疑問や好奇心を刺激して、主体的な学びを進めていきます。

③ 進んでチャレンジをする

「初めて」の体験がいっぱいの1年生。恥ずかしい気持ちに打ち勝って、様々な活動にチャレンジにしてほしいと思います。もちろん、上級生や教職員が、精一杯サポートしていきます。



【一年間を振り返って】

学校には様々なルールがあり、それはみんなが気持ちよく過ごすために必要なルールであることを学んだ一年になったと思います。挨拶についても、登下校のときだけではなく、様々な場面で意識して行えるようになってきたと感じます。また、学級の係活動や学年の遠足等、様々な場面で、自分たちの「やってみたい。」に挑戦することができました。

幼保小の交流では、遊びを通じた活動をたくさん楽しみました。また、年長児のことを考えて活動を計画するなど、相手意識をもって取り組めたところが素晴らしかったです。

今年の経験を生かして、次年度以降の学校生活が一人ひとりにとって充実したものになるよう、願っております。



<2年生>

学年目標

ハッピースマイルスター★

【大切にしたいこと】

① 自分で考えて、自主的に行動する姿勢を育みます。

1年生の時より教師からの指示を減らし、ねらいや見通しをもって、自分にできることを考え、友達と力を合わせながら、目的を達成していく機会を作っていきます。

② 学年で学習の進め方などを揃え、学年全体で動く機会を多くします。

初めてのクラス替えで混乱や不安が起きないように、子どもも保護者も安心できる環境を作ります。そうじ・給食の行い方から、ノートの使い方や宿題の取り組み方などを3クラスで揃えていきます。

③ 保護者の皆様と、一緒に子どもの成長について考える関係を目指します。

まちたんけんボランティアなどを募り、子どもの様子を見ていただくだけでなく、同じ学年の保護者同士の結束を高めたいです。



【一年間を振り返って】

2年生では、学年で活動する機会を多くもちました。そうしていく中で、子どもたちからクラスロジックを振り返る姿が見られるようになり、進むべき大きな道は同じでも進み方や活動内容などは、クラスごとに決めていくようになりました。子どもたちが、どのように問題解決するかを考えるようになり、次第に自主的に行動できるようになってきました。また、グループでの話し合いや活動を通して、友達と協力してものづくりをしたり、準備や片付けをしたりするなど、友達とのかかわり方を考えながら活動する様子も見られました。学級や学年の中でどのように過ごすかを自分で見つけていました。

1年間を通して、友達とのかかわり方や自分の力の出し方などを学び取ることができたように感じます。子どもたちが自分の得意なことに気付きそれを生かして行動する様子が多く見られ、成長を感じました。



ハッピースマイル3年生😊

【大切にしたいこと】

①「あいさつ」

あいさつは生活の基本です。誰に対しても、笑顔で、気持ちのよいあいさつができる人になってほしいと考えています。

②「きょうりょく」

学校はみんなで学習する場所です。誰一人取り残さず、みんなで協力して学びを進める人になってほしいと考えています。

③「じぶんから」

考えたらやってみることが大切です。日頃の生活で学んだことや気付いたことは、失敗を恐れず実行する人になってほしいと考えています。

④「おもいやり」

人は一人では生きていけません。自分もみんなも楽しく生活するために、丁寧な言葉を使い、明るく気配りできる人になってほしいと考えています。

⑤「きりかえ」

一日の中で、集中できる時間は限られています。授業中には積極的に発表をする、休み時間にはリラックスして思いっきり楽しむなど、上手にモードを切り替えてメリハリのある生活ができる人になってほしいと考えています。

【一年間を振り返って】

◎みんなのために何ができるのか、一人ひとりが考える一年になりました。

この一年間、定期的に学年集会を行ってきました。あいさつや言葉づかいなどといった基本的な生活態度や、友達への思いやりなどについてみんなで考え、話し合ってきた結果、自分自身を見つめ直し、改善を図っていこうとする子どもたちの様子が多く場面で見られました。

◎4年生へつながる校外学習でのマナー

今年度は、ランドマークタワー見学をはじめ、舞岡公園遠足、みなとみらい熱供給21プラント見学、消防署見学など、校外へ出かけることが多くありました。それらの機会を通して、公共のマナーを意識した集団行動がよりできるようになってきました。4年生では、いよいよ宿泊体験学習がスタートします。みんなで楽しい思い出を作りたいと考えています。



にじのふわふわマフラー

【大切にしたいこと】

① 自分（たち）で問題を解決することができる

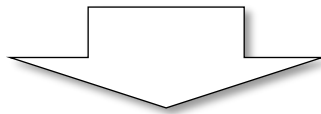
高学年の仲間入りをするにあたって、「自分が」だけでなく、「みんなが」気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいかを考える姿勢を目指します。話し合い活動などを通して、どのようにしたら解決できるかを考えられるようにします。

② 自分で選び、決める

見通しをもち、自分で考え行動する、決められたルールや約束を守って落ち着いて行動する力があります。今年は、子どもたち自身が何をしたいか、何ができるかを考え、自分たちの想いを実現しようとして行動していけるような姿を目指します。やらされる1年ではなく、自分たちで「つくる」1年になればと思います。

③ 考えを聞き合い、認め合う

友達のよい考えは、認めたり取り入れたりして、柔軟な考え方をもち、友達を受け入れられる姿を目指します。また、自分のことは自分です。そのなかで、課題が生まれたときは助け合い、一緒に考えたり一緒に行動したりすることで、人の「気持ち」をこれまで以上に大切にできるようにします。



【一年間を振り返って】

高学年の仲間入りをし、自分だけではなく、周りの人々のことを考えて行動することができるようになってきました。初めての宿泊体験学習では、めあてに向かって、自分たちで活動内容を考えました。「みんなが楽しめる」には、どうしたらいいか、自分たちが「したい」と考えている想いを実現させようと、友達と協力しながら取り組みました。宿泊体験学習のみならず、様々な行事を通して、一人ひとりが力を付け、成長する姿をみることができた1年間でした。

また、総合的な学習の時間を通して、SDGsの取組を知り、それに関わる人々と出会いながら見方や考え方を深めることができました。

<5年生>

学年目標

見つけよう！5つ葉クローバー

【大切にしたいこと(高学年として高めていきたいこと)】

① 高い目標をもって取り組む

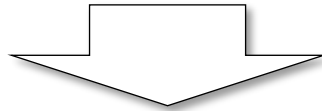
高学年となり、委員会活動や校外での活動など、学校の代表として取り組む場面がたくさん増えます。「MM本町小の顔」として、一人ひとりがクラス、学年、学校をよりよくしていこうとする目標をもち、活動していきます。

② 信頼を高められる行動をする

「判断力」「想像力」「行動力」「コミュニケーション力」の4つの力を高め、友達や他学年からの信頼を集められるようにしていきます。

③ 自分で成長する力を高める

自分自身がどんな人になりたいかを思い描き、そのためには何を頑張るのか、どんな力をつけなくてはいけないかを考えることで、何事にも前向きにチャレンジし、自分自身を成長させていこうとする気持ちをもてるようにしていきます。



【一年間を振り返って】

高学年としての自覚をもち、行事やたてわり活動において、リーダーシップを発揮しようとする姿が随所に見られました。1月からは6年生の登校人数が少ないこともあり、委員会活動、クラブ活動、たてわり活動それぞれにおいて、6年生が今まで行ってきたものを思い出しながら運営しました。回を重ねるごとに改善点をしっかりと修正し、よりよい運営になるよう、子どもたち自身で考えながら行動することで、自信にもつながりました。今年の実験を糧に、来年度は最高学年として、1～5年生を導いていけるような存在になることを期待しています。



<6年生>

学年目標

さあ！いこう！！

【大切にしたいこと】

(1) リーダーとしてさまざまな立場から物事を考えて、学校を創っていこう。

①相手の立場に立った考え方で、周りの人を動かせる人に。

→同級生だけでなく、下級生のよい考えを進んで取り入れて、活動をよりよいものに。

削るのではなく、「たし算の話し合い」で、互いに考えを認め合えるリーダーに。

(2) 最上級生として仕事を担い、学校を創っていこう。

①自分ができることは、する。できないことは、互いに助け合う。

→「当たり前のことを当たり前のように」できるようになる。

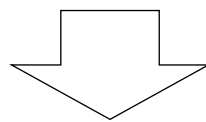
→一人で仕事をすべて担う（任せる）のではなく、チームで声をかけ合う。

→失敗を成功の糧に。人間は間違えるから、新しいものを生み出すことができる。

②他人のために力を出せる人になる。

→さまざまな仕事。内容を選ぶのではなく、行うことに意義がある。

どの仕事でも、自分が行うことで、みんなが助かる（役に立つ喜びを）



【1年間を終えて】

たてわり活動や全校遠足、そして片品宿泊体験学習など、自分たちで考えて動くという力がついてきたとともに、そのような行動習慣が身に付いてきました。

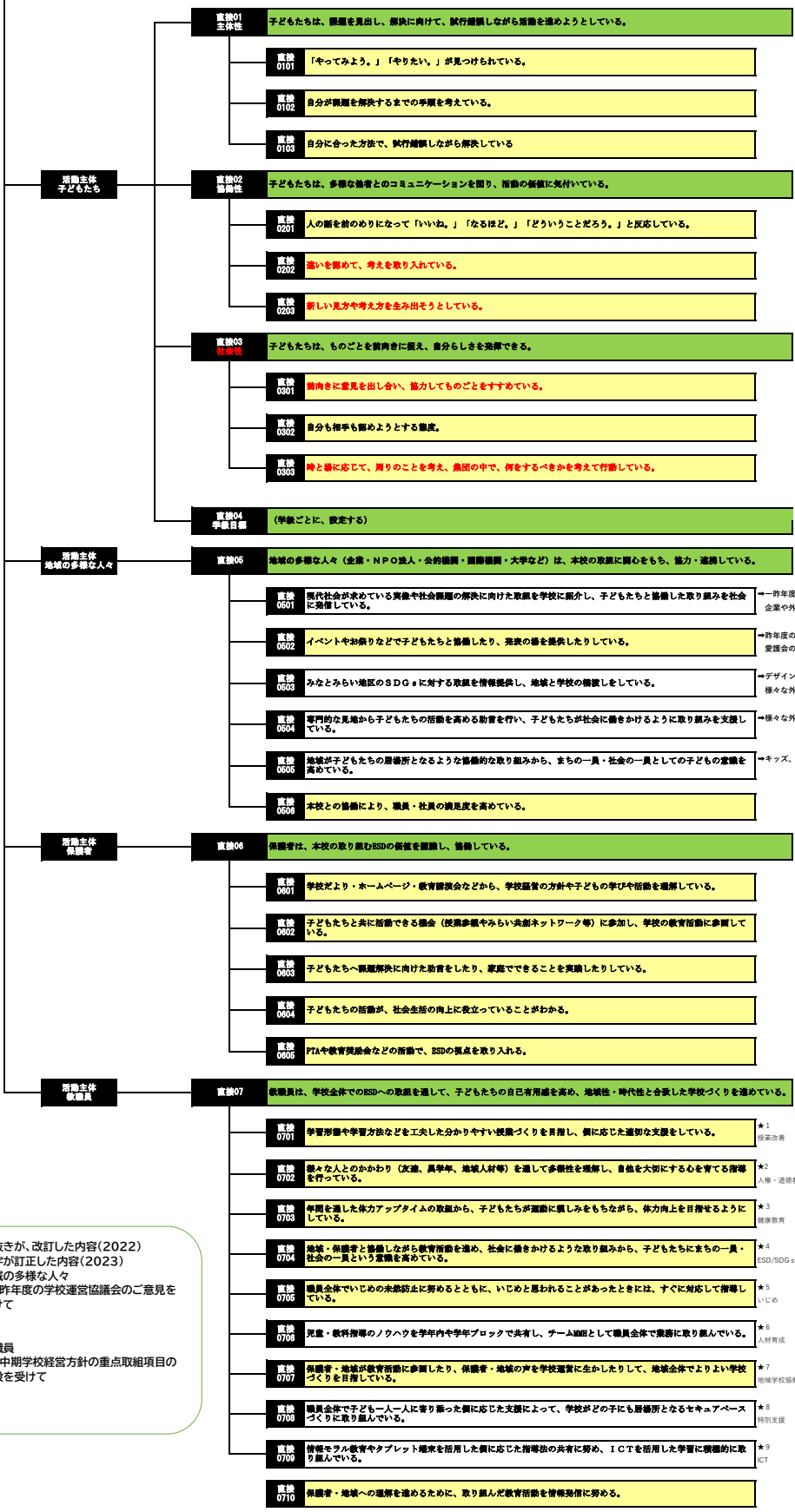
また、総合的な学習の時間では、海外との交流を通して多様な見方や考え方を広げたり、まちづくりを通して相手の立場に立って物事を考えたりすることができるようになってきました。

小学校卒業までの残りの期間、最後まで「当たり前のことを当たり前。」挨拶や、礼儀、感謝の気持ちをもって過ごしていけるよう担任一同、寄り添っていきます。



最上位目標
上位目標
戦略目標

スーパーゴール	学校教育目標【「みな」と「みらい」を繋がる子】 「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「思いを見出して学び続ける」「まことに愛情をもつ」「豊かな心をもつ」の8つの資質を育成する。
最終アウトカム	社会（まち・ひと）とつながり、 多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。
中間アウトカム	「みなとみらい」の豊かな資質を培った教育活動から、社会（まち・ひと）との課題解決に向けて、 多様な視点や立場に立ち、多様な価値観の考えを共有しながら、地域・保護者・企業をはたらきかけ、社会に変化を促せる子*1が育っている。 *1 社会に変化=改善



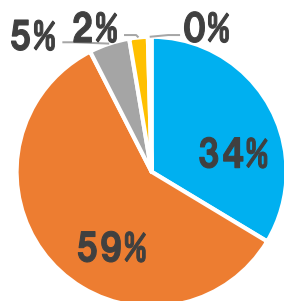
白抜きが、改訂した内容(2022) 赤字が訂正した内容(2023)
地域の多様な人々
⇒昨年度の学校運営協議会のご意見を
受けて

教職員
⇒中間学校経営方針の重点取組項目の
新設を受けて

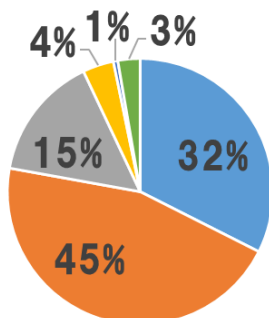
●子ども・保護者・職員アンケート結果

(1) 子どもたちは、学校の学習で「やってみよう」「やってみたい。」が見つげられている。

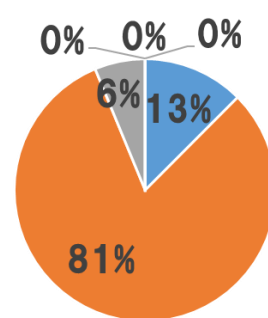
《子ども（R5後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



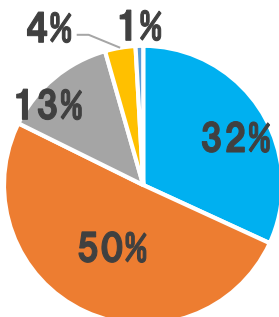
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

子ども・保護者とも、「そう思う」「ややそう思う」で80%を超える回答があった。自分から「やってみよう」「やりたい」という気持ちをもって学習に取り組んでいるとの評価が多かったといえる。職員の評価からは、さらに意欲的になれる余地があると感じていると捉えていた。

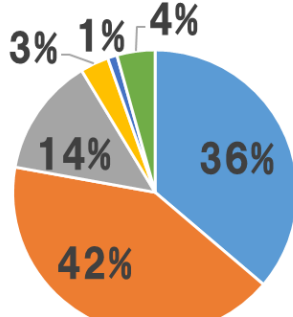
⇒子どもの課題意識を大切に学習内容や探究的で主体的な学びを工夫していく。

(2) 子どもたちは、自分で学習の課題を解決するまでの、計画を考えながら学んでいる。

《子ども（R5後期）》

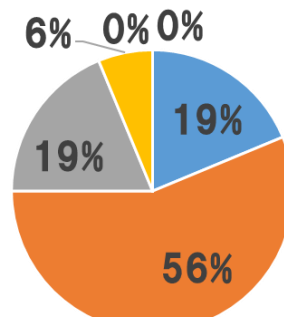


《保護者（R5後期）》



- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

《職員》

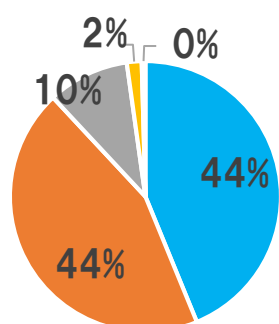


昨年度と比較すると「そう思う」「ややそう思う」の回答が増加している。総合的な学習の時間、生活科をはじめ、どの教科でも探究的に学習できる時間を充実させてきた成果が表れている。HPでの活動報告や子どもからの伝聞で保護者にも学習内容や意図が伝わっていると考えられる。保護者に比べて職員の意識は、さらに主体となって探究していける余地がある、という期待が表れている。

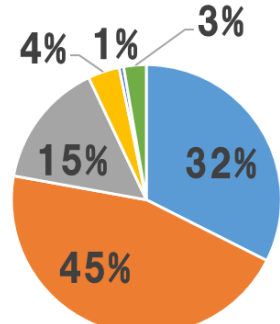
⇒職員と子どもがESD/SDGsを意識した活動作りや問題を見出し、解決方法を考察する学習形態を引き続き研究していく。

(3) 子どもたちは、学校の学習で自分が分かる方法を見つけたり、試したりしている。

《子ども（R5後期）》

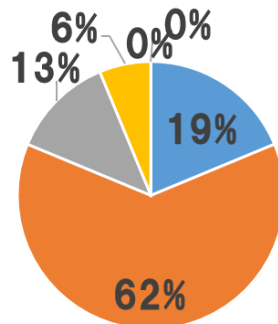


《保護者（R5後期）》



- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

《職員》

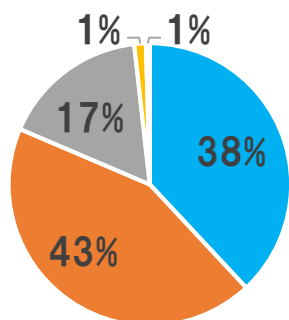


保護者からの評価と職員の評価を比較すると「そう思う」「ややそう思う」の割合が異なっている。問(2)の評価にも同様の結果があったように、子どもが自分で考える時間と対話的に探究していく時間の両立を目指していく必要がある。

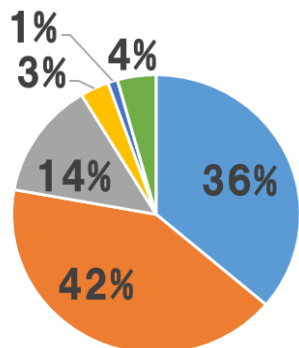
⇒タブレット端末を用いた学習を有効的に取り入れたり、教科横断的な学習や弾力あるカリキュラムマネジメントを進めたりすることによって、課題解決型の学習をさらに取り組んでいく。

(4) 子どもたちは、友達や先生の話を書くときに、「いいね。」「うーん。」「なるほど。」「どういくことだろう。」など興味をもって聞いている。

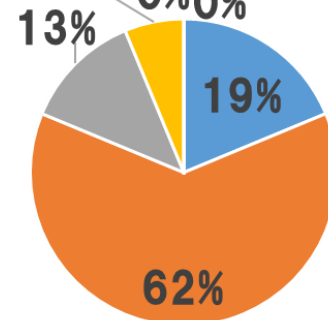
《子ども (R5後期)》



《保護者 (R5後期)》



《職員》



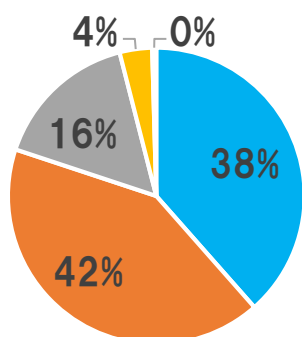
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

保護者の評価では、子どもが主体的に学んでいると捉えられるが、およそ2割はそうでないと感じていることが分かる。職員の評価からも、全員が主体的に学べているわけではないと考えられる。

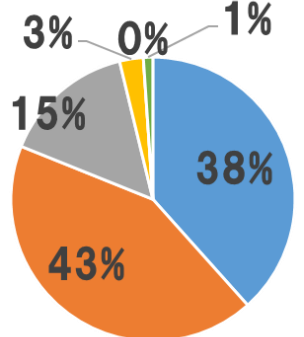
⇒全ての子どもが主体となれるよう、一人ひとりが課題意識を持てるように主体的で対話的な学習形態を工夫していく必要がある。また、集団で学ぶ良さを実感できるような活動を継続したり、学び合う良さを価値づけたりする手立てが必要と感じる。

(5) 子どもたちは、自分とは違う意見を取り入れて活動を考えたり、考えをまとめたりしている。

《子ども (R5後期)》

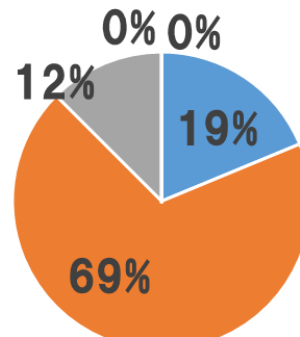


《保護者 (R5後期)》



- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

《職員》

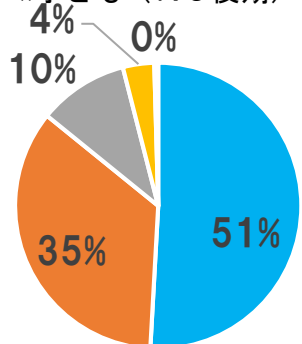


昨年度の保護者評価と比較すると、概ね増加傾向にあると捉えられる。学部機関との連携がより充実してきていることや対話的に学習を進めていることが評価につながっていると考えている。一方で、問(1)～(7)の職員の評価では、「そう思う」と言い切れない部分があると捉えられる。学習や個人によって、主体性の差が出てきていることが考えられる。

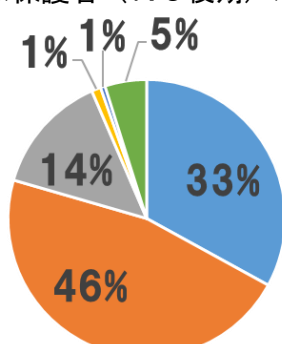
⇒ESD/SDGsの活動や地域イベントでの発表から、一人ひとりの役割を意識したり自分自身で課題設定したりするなど、見通しと振り返りを充実させた活動にシフトしていくことも必要と考える。

(6) 子どもたちは、友達や先生と、新しい見方や考え方を見つけることを楽しいと感じている。

《子ども (R5後期)》

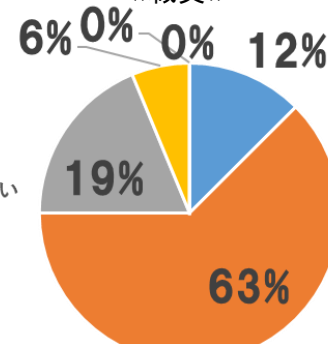


《保護者 (R5後期)》



- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

《職員》

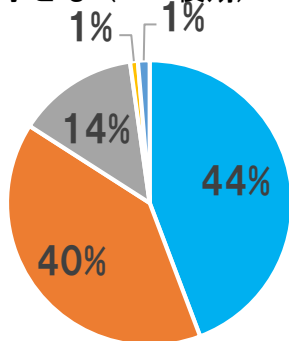


前期に実施した児童の自己評価では「全ての教科／教科によってはそう思う」の回答が9割近くあった項目である。子ども、保護者、職員ともに、新しい見方考え方を見つけることを楽しいと感じられていると評価している。保護者、職員に関しては「どちらともいえない」の割合が子どもに比べて多い。子どもの自己評価を可視化するなど、アウトプットの方法に工夫が必要だと考える。

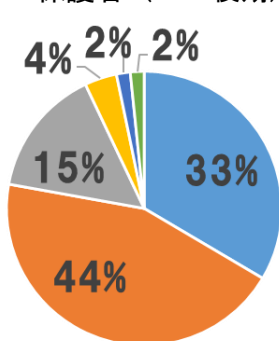
⇒引き続き探究的に学べる学習形態を工夫していく。また振り返りの充実や児童にリアルタイムで評価できる工夫をしていく。

(7) 子どもたちは、前向きな意見を出し合い、協力して物事を進めている。

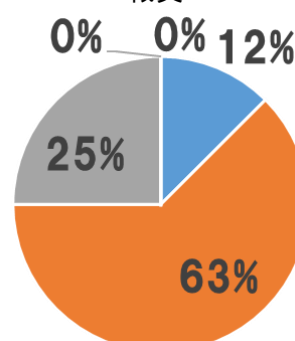
《子ども (R5後期)》



《保護者 (R5後期)》



《職員》

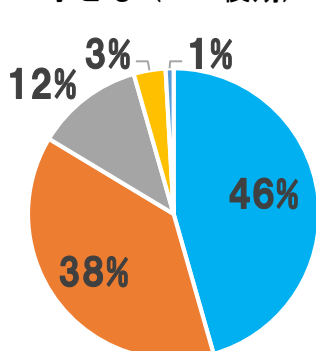


■ そう思う
■ ややそう思う
■ どちらともいえない
■ あまり思わない
■ 思わない
■ 分からない

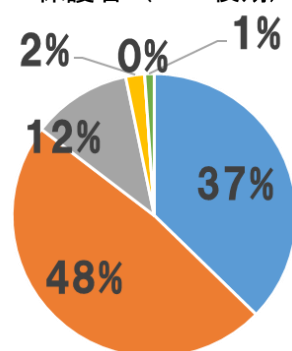
保護者のアンケート結果は、昨年度と比べて「どちらともいえない」の割合が減り、肯定的な回答が77%に増加している。外部との協働的な活動やロジックを活用した学級づくりの充実などが保護者にも伝わっていると考えている。概ね高評価と言えるが、「あまり思わない」の回答も一定の割合であり、職員の評価ではそれが無いことから、職員が一人ひとりの子を評価できていないことも考えられる。
⇒ 集団の形成においては、肯定的・否定的、様々な見方が必要であると考え。「あまり思わない」「思わない」と回答した理由を考察すると共に、子どもたちが目標を達成するための様々な意見を教師も子どもも大切にできるように努めていく。

(8) 子どもたちは、ひろい心で自分も相手もみとめられたと思いますか。

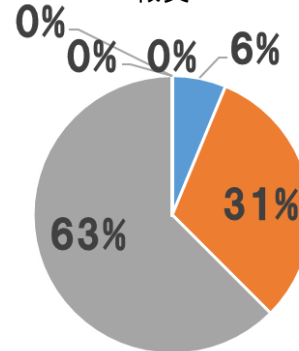
《子ども (R5後期)》



《保護者 (R5後期)》



《職員》



■ そう思う
■ ややそう思う
■ どちらともいえない
■ あまり思わない
■ 思わない
■ 分からない

子ども・保護者とも高評価であった。子どもたちも多様性を認め合える心情は大切にしたいと願っている。職員からは、集団生活の中で、時にぶつかり合いながらも、相手の立場や考えを受け入れることで視野を広げられるような経験や、学び合いや認め合いから自己有用感について、これからも育てていきたいとの意見が出された。
⇒ 来年度は校内研究会で研修を行ったり、クラスロジックを活用した学級経営を研究したりしていく。そのような取組を通して、互いの人権や生命を尊重していく心情を、日常の学校生活でも生かしていけるように、様々な教育活動で育てていく。

【備考】今年度も、ロジックモデルに基づいたアンケートを実施した。

子どもアンケート 前期 9月実施 / 後期 2月実施

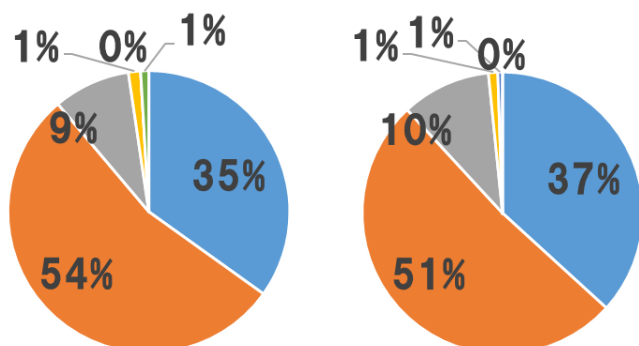
保護者アンケート 前期 10月実施 約63%
後期 2月実施 約45%

※年2回のアンケート以外に、参観後にもそれぞれ実施。

職員アンケート 1月実施 回答率 約80%

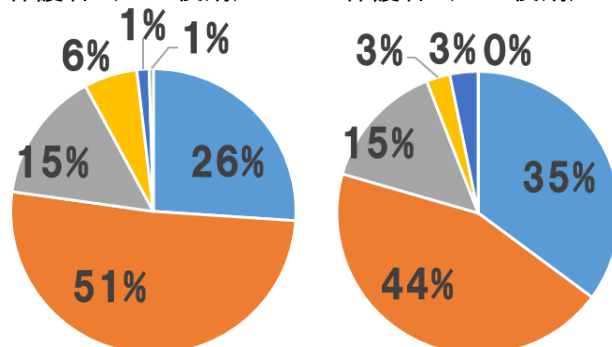
(9) ご家庭は、学校だより・ホームページ・学校説明会などから、学校経営の方針や子どもの学びや活動を理解できている。

《保護者（R4後期）》 《保護者（R5後期）》



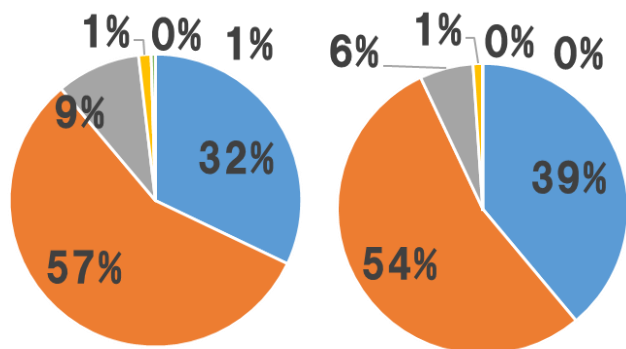
(10) ご家庭は、子どもたちと共に活動できる機会（授業参観やみらい共創ネットワーク等）に参加し、学校の教育活動に参画できている。

《保護者（R4後期）》 《保護者（R5後期）》



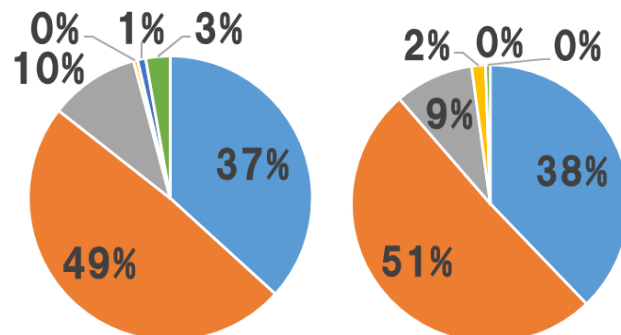
(11) ご家庭は、子どもたちへ課題解決に向けた助言したり、家庭でできることを実践したりしている。

《保護者（R4後期）》 《保護者（R5後期）》



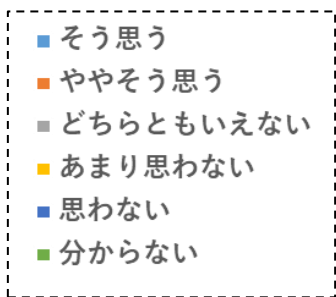
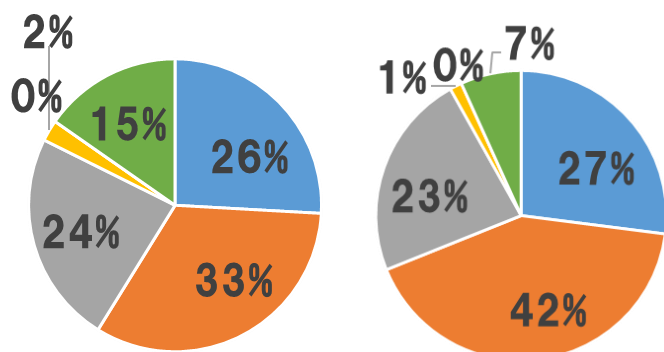
(12) ご家庭は、子どもたちの活動が、社会生活の向上に役立っていることがわかっている。

《保護者（R4後期）》 《保護者（R5後期）》

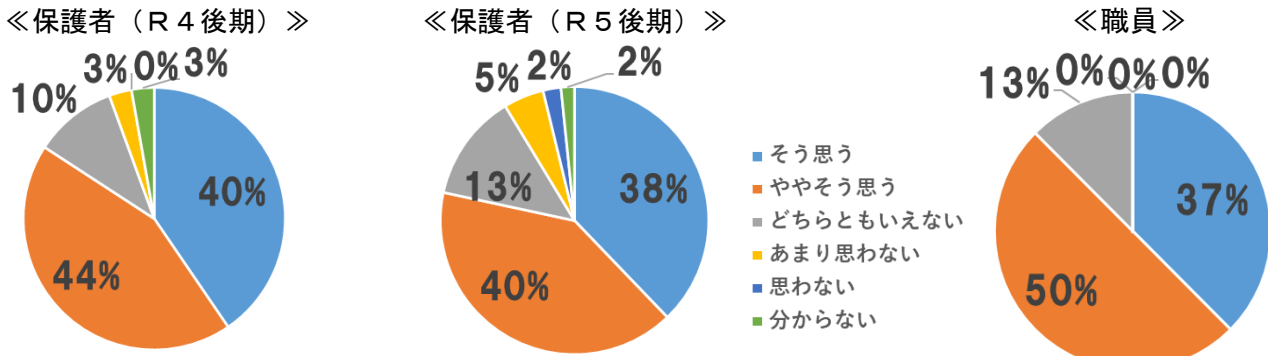


(13) (PTA や奨励会の役員さんのみ)PTA や教育奨励会などの活動で、ESD の視点を取り入れている。

《保護者（R4後期）》 《保護者（R5後期）》

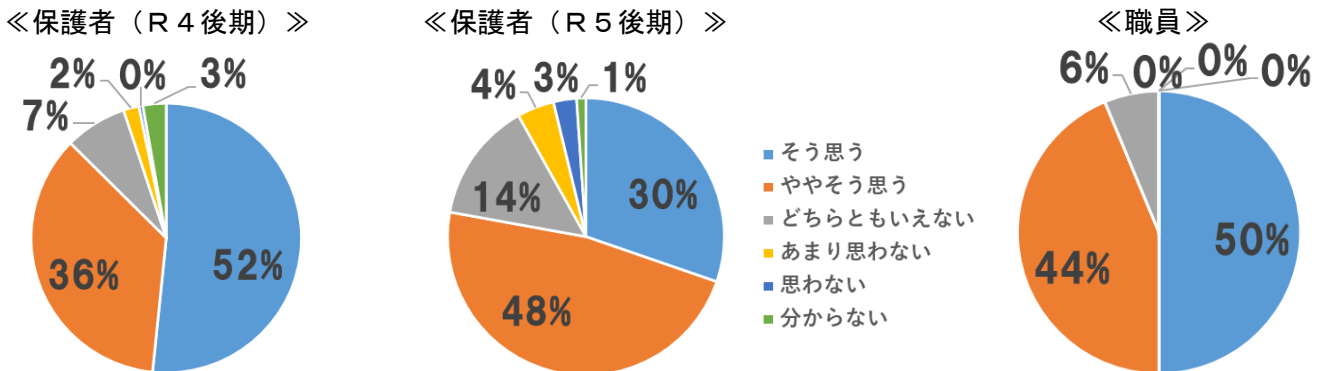


(14) 学校は、学習形態や学習方法などを工夫した分かりやすい授業づくりを目指し、個に応じた適切な支援をしている。



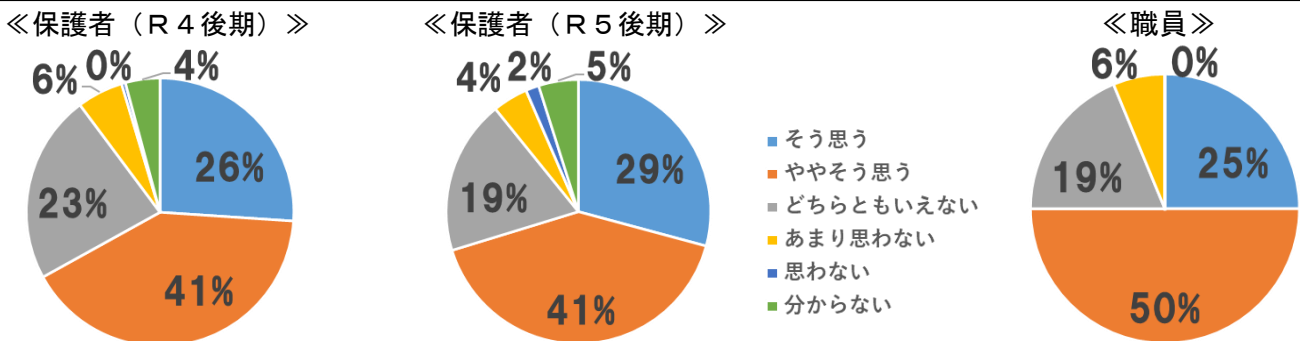
保護者からの評価は通減傾向にある。参観や学級の取組方法は大きく変更はしていない。職員と保護者の評価を比較すると個に応じた適切な支援を行っているが、その効果が不透明なところがあると考えられる。
 →「個に応じた支援」や「主体的な学び」などが児童と保護者共に実感できるような工夫が必要。

(15) 学校は、様々な人とのかかわり(友達、異学年、地域人材等)を通して多様性を理解し、自他を大切にすることを育てる指導を行っている。



昨年度と比べ、「そう思う」の回答は52%から30%に、肯定的意見全体でも88%から78%へと減少している。さらに、「思わない」の回答が3%になった。質問(8)では、肯定する回答は増加傾向にあるのに対して、減少する評価となった。たてわり活動やSDGs関連の活動では高い評価をいただいていることから、質問項目にあるような観点で情報を発信できていなかったことが考えられる。
 ⇒来年度のM研では児童の社会情動面を重点的に研究/研修を進めていく。教師が児童の心情面の評価をより広くできるように取り組んでいく。また、HPでは、質問項目にあるような視点でも伝えていけるように工夫する。

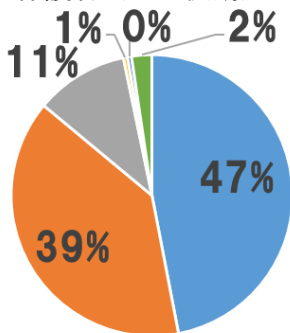
(16) 学校は、年間を通じた体力アップの取組から、子どもたちが運動に親しみをもちながら、体力向上をめざせるようにしている。



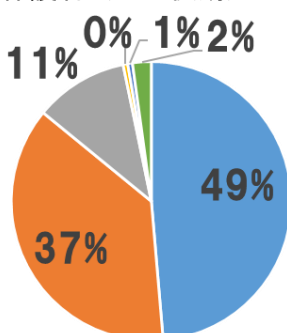
今年度は、朝の時間を使った週1回の体力アップ活動に、投げる動き(玉入れ)など楽しみながら取り組めるように工夫している。職員からは通年で同じ種目に取り組むことで体力アップを実感できるようになるのではないかと、運動に親しむ＝体力向上という視点の見直しなどの反省が挙がっていた。
 ⇒体力テストの結果を活用しながら、児童と一緒に体力向上の取組について検討していく。来年度は年間通して、自分の体力向上について振り返りができるような工夫についても検討していく。

(17) 学校は、地域・保護者と協働しながら教育活動を進め、社会に働きかけるような取り組みから、子どもたちにまちの一人・社会の一人という意識を高めている。

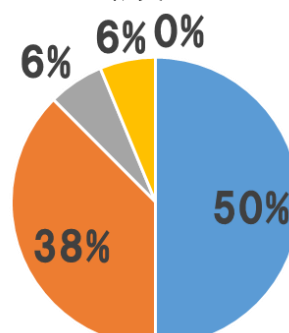
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



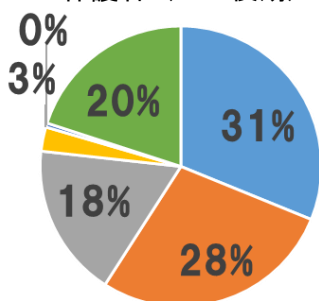
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

昨年度に引き続き、高い評価となった。ESD/SDGsだけでなく、教科学習においても、地域・保護者の協力を得ながら、教育活動に取り組んでいることが伝わっていると思われる。経年で見ても「どちらともいえない」の割合が一定数あることから、より地域や社会に根差した取組としては評価が低いと考える。

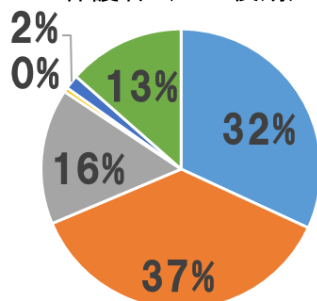
⇒地域での活動やイベントでの発信など、地域・保護者と協働する取り組みを積極的に推進していく。

(18) 学校は、職員全体でいじめの未然防止に努めるとともに、いじめと思われることがあったときには、すぐに対応して指導している。

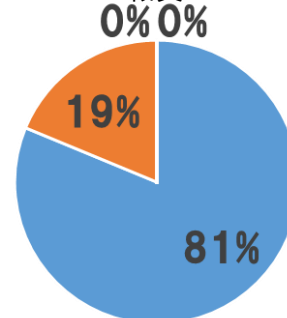
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



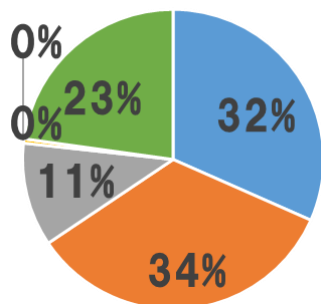
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

昨年度に比べると「分からない」の回答が減少している。このことから、学校の対応が昨年度よりも伝わっていると捉えられる。しかし、昨年度は無かった「思わない」の回答があったことも課題として捉えている。保護者のいじめ等への関心の高まりから、全ての家庭で安心していただけるような発信方法も検討していく必要がある。

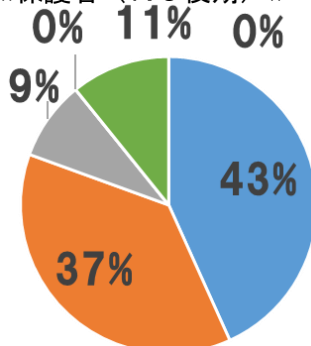
⇒学校だよりで専任からの報告を継続するとともに、毎週の会議などで全職員が連携して未然防止に努めていることを発信していく。

(19) 学校は、児童・教科指導のノウハウを学年内や学年ブロックで共有し、チーム MMH として職員全体で業務に取り組んでいる。

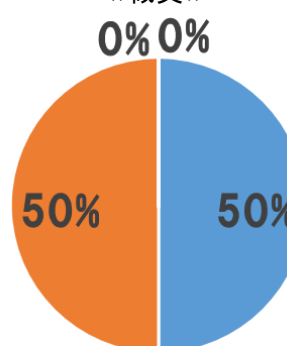
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



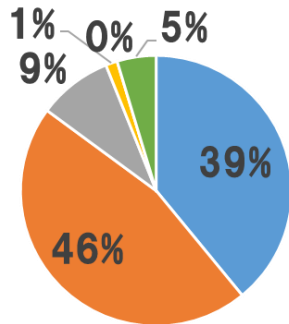
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

保護者評価では、昨年度に比べて「分からない」の回答が減少している。各学級指導や若手職員への高評価があり、結果的に本項目の評価も高まっていると考える。一部教科担任制を取り入れたり、児童のトラブルには複数の職員で対応したりと、学級担任一人で抱えるのではなく、学年・専科担任・児童支援専任・級外職員など複数の職員が連携して対応するようになってきた。

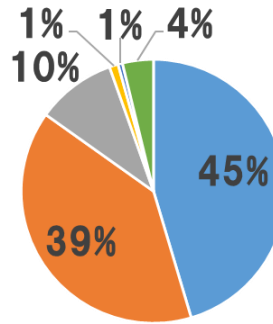
⇒チーム MMH として、フォローをし合っていることや、複数の職員が窓口となる良さを、さらに発信していく。

(20) 学校は、保護者・地域が教育活動に参加したり、保護者・地域の声を学校運営に活かしたりして、地域全体でよりよい学校づくりを目指している。

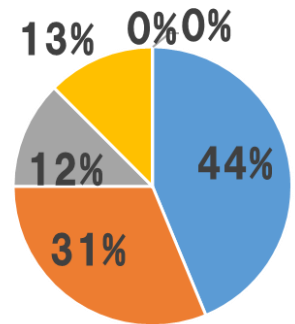
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



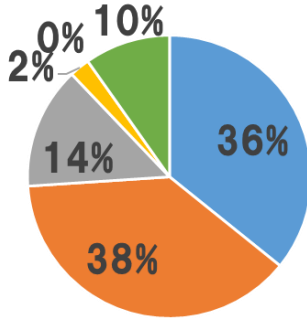
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

昨年度に引き続き、高評価をいただいている。みらい共創ネットワーク！を仲立ちとする保護者 SP や授業参観等で共に活動する機会をつくることができた、参観後や前期・後期の保護者アンケート、学校運営協議会などでいただいたご意見を学校運営に生かしていることを、さまざまな形で発信するようになってきた。

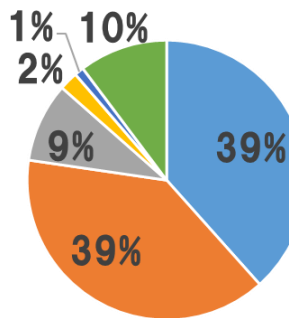
⇒ともに教育活動を推進できるよう、みらい共創ネットワーク！との連携を深める。いただいた声は分析し、学校運営に反映していることをより実感できるよう、「分からない」と回答している方にも、具体的な事例を学校だよりなどで発信していく。

(21) 学校は、職員全体で子ども一人一人に寄り添った個に応じた支援によって、学校がどの子にも居場所となるセキュアベース作りに取り組んでいる。

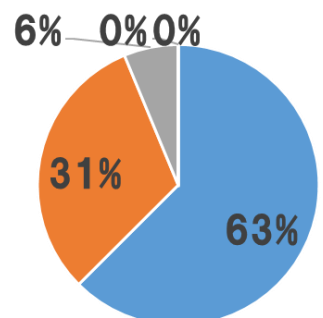
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



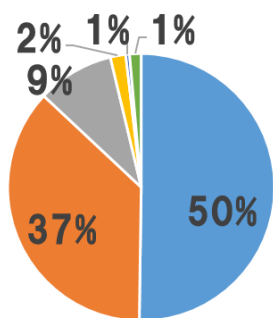
- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

「分からない」と回答した割合は、依然として多い。児童はさまざまな課題を抱えている。その課題解決に向けて担任一人ではなく、学年担任・児童支援専任・養護教諭・特別支援教育コーディネーター、SSWなどが連携し、職員全体で子どもたちを支え、どの子にも学校が居場所となるような支援に取り組んでいる。個別の事案を発信することはできないため、保護者が実感できる機会が少ない。

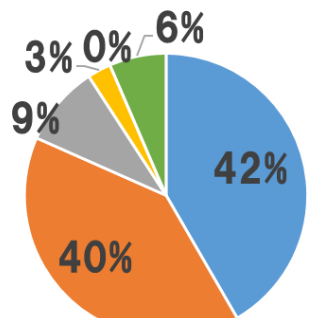
⇒学校の児童を支える体制などを発信していくとともに、個人面談などで個に応じた支援を伝える。職員全体が暖かい雰囲気子どもたちを支えていることを感じてもらえるようにする。

(22) 学校は、情報モラル教育やタブレット端末を活用した個に応じた指導法の共有に努め、ICTを活用した学習に積極的に取り組んでいる。

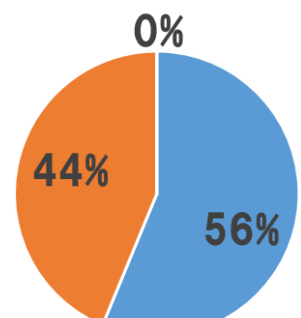
《保護者（R4後期）》



《保護者（R5後期）》



《職員》



- そう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 思わない
- 分からない

昨年度と比較すると「そう思う」の割合が減少し、「分からない」の回答が増加している。どの学級でもタブレット端末を用いた効果的な授業デザインを目指し、取り組んでいるが、さらに児童が効果的に学べるような活用方法の研究に課題が残る。

⇒校内での研修などを通して、端末利用法だけでなく、情報モラルを両輪に、学校全体で系統的に取り組んでいく。